

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：本江他美夫 幹事：長谷川壘人

情報委員長：春田義正

1986・10月2日 第325号

ガバナー講話

「ロータリーは希望をもたらす」

国際ロータリー第261地区

ガバナー 三谷長八郎氏



貴クラブが大変ユニークなクラブとして発展しておられることをお慶び申し上げます。

今回はRI会長のカパラス氏の「ロータリーは希望をもたらす」というテーマによってお話をしてみたいと思います。併しこのテーマは大変巾の広いもので少々時間では話し切れませんので集約をして申し上げその後でポリオの問題、それから高齢者問題、若しまだ時間があれば私の考えを少し申し度いと思います。

国際協議会第1日目にカパラス会長が「ロータリーは希望をもたらす」という題のもとに講演をされましたが、それでは何故このようなテーマが生まれて来たのかを知っておく必要があると思います。このことについてマニラのRCの会員であるサンチャゴドムラオという人がカパラス氏の人間像について語っています。このカパラス氏の云っているテーマは彼の人生と国の実情に非常に深い関係があるのである。それで先づカパラス氏の生い立ちから話をして行きたい。カパラス氏という人は1923年フィリピンのルソン島で生まれています。お父さんは弁護士であり、又農場の経営者でもあった。彼カパラスの生まれたところには学校がなかったので彼はマニラで教育を受けた。夏休みには自分の農場に帰り農作業に従事した。フィリピンの夏は想像に絶する程暑いその炎天下での農作業は体験しなければわからないのであるが、このような厳しい労働に対する賃金は極めて安いのである。このような貧しい人々の生活を知ることによってこれらの人々に強い関心を持つようになった。又、フィリピンは非常に封建性の強いところであり又身分差別の大変厳しいところである。彼の父は民主的な人で而もクリスチャンである農場に働いている人々又その家族と一緒にテーブルで食事をしておられたということである。このようなことは当時のフィリピンでは皆無に近いことである。このような父の平等博愛の精神で教育されたカパラスは人々の為に少しでも役立ちたいと決意したのである。やがて彼はハーバードで法律を学び現在マニラで法律事務所を開いているが、貧しい人々の生活をよくしようと先づ労働性を学びこの研究によって現在労働法に関しては権威者である。

このように秀れた知識人であるが少しも尊大ぶった所もなくいつもにこやかであり大変温い人柄である。世界には非常に豊かな国と貧しい国があるがこれらの国が更に友好関係を増進すべきだと彼は訴えております。友好を増進することは豊かな国が貧しい国に援助を与えることである

(つづく)

ROTARY BRINGS HOPES

が、これまでの援助は国と国とによって行われてきている。併しその援助が目的通り正しく行われて来たかどうか疑問である。この配分は役所がやるのであるがそれは必要以上に遅れるし、又配分したといってもわづかいいわけ程度のもので他のものはどこへいったかわからない。又政治家達は自分達の都合で全く援助を与える必要のない人々に援助を与えたり目的と全く反することにそれが使われている。全く常識では考えられないことが平然と行われているのです。余りにもひどい政治の腐敗にカパラスは常に嘆いているとドムラオ氏は語っています。若しその援助が正しく国と国民につかわれていたならば国の発展度は大きく変っていた筈であります。このような政府間の援助と異り民間団体が援助を送る場合は全く不安はありません。例えばロータリーの場合ですと、世界中にネットワークをもっているからどんな小さなところでもロータリーの存在するところには情報が速時に届くのであります。このような組織があれば援助は間違いなく配布されるし先程申し上げたように利害に執はれることなく公平に配分出来ます。従ってロータリーをはじめとする民間団体の援助が最も友好増進に役立つのだとカパラスは言っています。このような考えでロータリアンには更に新しい希望を持って欲しいと訴えています。その希望とは助けを必要とする人達に国際的な援助の手を差し伸べて欲しいのであります。彼の心の中には今日の絶望を明日の喜びにかえる道を照らそうという希望があります。そしてロータリアンはこの希望の灯の担い手となってほしいと強調して居ます。彼の社会奉仕の信条はその生い立ちとキリスト教の信仰によるものであります。私は善を守るために又他人の愛のために信仰を異にする人達とも協力して働くと言っている「ロータリーは希望をもたらす」ということは彼の味わった様々な経験と発展途上国のおかれている暗い環境から一刻も早く抜け出そうとする必要的な願望から生れて来たものであります。国際協議会の本会議で彼は言っていますがそのままの言葉でお伝え致します。

『希望とはよりよきものへの期待であります。希望とは智慧に拘らず人々を動かす光であります。希望のない人生は絶望の中で暮すことにほかなりません。希望は大きくても小さくても希望の花が咲けば人生に喜びと前進があります。他人の生活に希望の花を咲かせた人は自分自身を二倍豊かに致します。即ち「最も多く奉仕するものは最も多く報われる」この言葉に多くの人々がロータリーに引きつけられて来ました。ロータリーはより意義深い人生に通ずる道であると気がつきました。我々はロータリーの歯車の徽章に誇りを持っています。この歯車はじめは商業、続いて産業そして今は希望を表わしております。今我々がなすべき事は、ポリオから子供を守って凡ての人を飢餓から救い、いきがいのある人生を、そして平和な世界を守るために全世界の人々の理解と協力を求め
(つづく)

今週の花

吉山 宥海
(9月25日)

芙 蓉
じゅず玉



に働きかけましょうと居ります。「ロータリーは希望をもたらす」このテーマは全てロータリアンの献身的な奉仕にかかっている』とこのような言葉で結んでいます。発展途上国の人々の幸せいかにによって発展国の人々の幸せにも影響を与えることとなります。昔からの諺に衣食足りて礼節を知るというのがありますが、世の紛争というものは常に貧困が原因であります。貧しい国を発展させる道というのは、豊かな国がこれを援助して発展の道を切り開いてやることです。即ち発展途上国に希望の光を与えることによって国際理解が深まり世界平和の促進につながると確信して居ます。希望とは人間関係の改善、職業道徳の高揚よりよい社会の創造、平和の増進と凡ゆる奉仕を指しておりますが、時間の制約がありますので主として国際理解に関して申し上げましたが、よろしく御理解を頂きたいと思えます。

今年のテーマには二つの活動計画があります。その一つはポリオ撲滅計画であります。これは国際ロータリーが世界保健機構と提携しましてポリオ撲滅運動を展開しようというものであります。1986年から1990年の5ヶ年にかけてポリオワクチンに要する費用を集め世界26ヶ国8700万人以上の子供達にポリオワクチンを与えようというものであります。ロータリー百周年に当る2005年までに世界からポリオを絶滅しようという計画であります。これに要する各費は1億2000万ドル以上という巨額であります。これは単なるロータリー財団のプログラムではなくてロータリアンの責任であり課題であり、世界の子供達への約束であります。今世界中でポリオによって1年間に400万人の子供が亡くなっていると聞いています。時間にすると僅か30分の間に100人の子が亡くなり、あとの30分間には100人の子供が新たに犯されています。ポリオワクチンさえ与えれば救ってやれる筈の命であります。このような不幸な子供達を救うために今、その行動を開始する時であります。皆さんの中には戦争を知らない世代の方もおられると思いますが、昭和20年8月日本が敗戦したときのことを思い出して下さい。あの頃の日本の状態はどうであったか、第一に食べものがない、凡ゆる物資が欠乏している。街には飢えに苦しむ人々が溢れている。このままでは日本の存亡さえ心配した時期がありました。併し米国をはじめとして各国から食料其他種々なる援助物資が送られて来てどうにか生きのびて来たことを考えますと、現在世界の経済大国といわれるまでに成長した日本が、今こそあの時の恩恵に報いるときではないでしょうか。世界には自分の国の力で子供達の予防医療が出来ない国が沢山あります。このような暗い国の子供達に光を与えるために皆さんの御理解と御協力をお願いする次第であります。

もう一つは我が国における高齢者問題であります。最近日本は世界一の長寿国になりました。現在65才以上の老人が1280万人で全人口の10.5%に当ります。昭和75年には2000万人を突破するだろうといい、更に21世紀の初頭には4人に1人の割合で老人が増えることであろう。人類史上経験のない比率であります。この事は大変喜ばしい事ではあります。反面又、種々な問題を孕んでいる事も事実であります。核家族化が進んで高齢者家庭が増えております。このような高齢者の養護、身寄りなき老人の収容、高齢退職者の雇用の問題等に老後生活に幾多の問題が出ている事も事実であります。日に日に高齢者人口は増えています。青少年の将来は高齢者についての負担が非常に重くなって参ります。果してその重圧に耐え切れるかどうか難しい時代に向って参りました。政府もこれを放置出来ない問題として、人生80年時代に応しい長寿社会対策大綱を6月に決定してその全容を発表しましたが、その概要は21世紀のはじめに到来する長寿社会を抱擁力と活力のある豊かな社会にするために今までの制度や慣行を見直して職業生活から老後生活へのなだらかな移行を目指して65才位までの継続雇用、二世帯が同居出来るような住宅の建設、高齢退職者の学門、技術を生かしてそれを海外協力に向けるというような制度なども打出しております。9月12日の国会に於ける
(つづく)

ROTARY BRINGS HOPES

総理の所信表明に於いてもこのような策を総合的に積極的に推進することを表明しています。生涯どの段階でも安心して生活出来る経済社会のシステムの転換を目指しておりますが、健康や福祉という細かい面に於ては未だまだボランティアの団体又地域社会の協力を必要とする面が多く残されております。高齢期にある人達が我が子供の頃に注いてくれた愛情に応える為にも我々は何かして上げねばと思っております。発展途上国では老人達は貧しいながら家族に暖かく見守られて余生を送っていると聞いているが、どんな高齢者にとっても精神的な安らぎこそが何よりの幸せでないかと思えます。高齢者社会に対応する為には皆さんのクラブに於かれても地域の行政やボランティアの団体とも意見を交換して老後の生活が明るいたそがれになるように衆智を集めて欲しいと思えます。

次に私の考えを少々申し上げます。先づ、情報活動であります。国際ロータリーには、ロータリーの活動に必要な多くの委員会がありますが夫々の委員会から活動促進に資する種々の情報が送られて来ます。この情報がまた多すぎて選択に困っています。併し日本のロータリーは他に比べて凡ゆる面で秀れていると思えます。だから今特に促進すべきものはないが強いていえばロータリーの内外に対する情報活動が不足しているのではないかと思えます。それには種々の理由がありましようが、流されてくる情報が非常にわかり難いが多い。そのためにはもっとわかりやすくする必要があります。今の時代は情報技術の発達と情報の自由化によって世界の片隅でおきたことも直ちに全世界に報せられます。情報には国境がなくなってきた、更に情報が世界を管理する時代になりました。今年度2月にロータリアン百万人の夢が達成されたのもこのような情報化のおかげだと思えます。併し日本ではまだ情報活動が十分に機能していないと思う。やがて二百万人目標が打出されることでしょうが、これを進めるにはわかり易いロータリー情報を内外に提供してその理解を計って行く以外に拡大増強のよい方法はないと思えます。現にロータリアンの中にはまだ理解の進んでいない人も多くあるようです。ロータリーの窓を開くにはロータリアンがもっともっとロータリーを理解してロータリー以外の人にこれまでの曲解や誤解を一掃して正しくロータリーを認識して貰う必要があります。このような現実から私は「皆にわかるロータリー」を提唱した訳であります。

その為には平易な文章と我々が日常使っている言葉によって、誰にでもわかるようにしてロータリーの風通しをよくしなければなりません。ロータリーは地域に密着することによって希望が生れて来ます。今のところ地域と密着するには広報活動によるしかありません。私の調べたところでは多くのクラブの広報活動は休眠状態であります。出来るだけ早く休眠から覚めて活発な活動を展開して欲しいと思えます。

広報活動を始めるには先づ、情報の威力を認識せねばなりません。先きのフィリピンの政変で流血の惨事なしに革命が成功したのは情報の力であります。刻々に変わりゆく状態を逐一ちに伝えることがなかったらおそらく民兵は武器を持って立上り、軍隊はそれに対抗して大変な事になったと思えます。このように情報化時代に於てロータリーの発展を期するためには広報活動を軽視するわけにはいきません。ロータリーは地域の中に生きてこそ存在価値を発揮する訳ですからロータリーを地域から孤立させる訳にはいきません。広報の欠落したクラブはまさにロータリーの為のロータリーだといっても過言ではありません。

広報とは決して難しいものではありません。

皆様の奉仕活動を新聞或は地方のミニコミ又は市町村発行の公報紙を夫々活用して夫々の特色を生かしてこそ価値が生じて参ります。

どうぞ実のりのある広報活動によって地域に奉仕の扉を開いて頂き度いと思えます。広報はややもすると軽視されがちであったが、実はあなたのクラブの将来と発展を決定するものです。

時間が参りましたので、貴クラブの発展を祈念して私のスピーチを終わります。

—金沢北RCガバナー公式訪問例会より— (文責 春田義正)

クラブ協議会

ガバナー公式訪問

9月25日(木) 出席28名

社会奉仕 (坂下)

城北地区少年武道錬成大会(10月26日(日))
共同募金寄付、ボーイスカウト助成金
現代美展後援

国際奉仕 (村田)

交換学生、財団、米山、ポリオプラス
ポリオプラス街頭募金(10月10日(祭)香林坊)

職業奉仕 (小林)

ソフトボール大会、職場親善球技大会
職場訪問例会

例会 (中谷)

会場監督を兼務
月はじめは花合せにより着席
月毎の早出当番、食事前の合掌
食事時のロータリーソング
(普段歌わないソング)
年3回の夫人同伴例会(親睦をはかる)

拡大 (増江)

本年に入り4名の新会員
当クラブの特色でもある芸術家の方の入会
にも力を入れる。

企画 (石丸)

例会の講師
夜間例会はクラブフォーラムとして、会員
間の友好、親睦、交流を図る。

情報 (春田)

会報の発行、会員の投稿依頼、広報

親睦 (大場(吉))

洛北RCとの会、月見の会、年忘れ家族会
(会員作品展)、花見の会、グルメ、お茶会
他、会員相互の親睦図る

修練 (越野)

新会員の教育、新会員研修会
100%出席を重点的に教育
ロータリー文献、ロータリーの友により以上
に目を通す。

友好 (滝)

友好クラブとして京都洛北RC(10年目)
USAヨバ・リンダRC(8年目)
韓国南光州RC(3年目)
10月24日(金)京都洛北RCと合同例会

地域開発 (越野)

地域との密着
城北地区開発促進同盟への寄付(10万円)

新会員の御意見

その他 年次大会のあり方について



第29回 金沢5RC合同ゴルフ大会

金沢北RC団体優勝 大沢会員個人優勝

9月23日(祭) 片山津ゴルフクラブ日本海コース

【団体の部】			【個人の部】			O	I	G	H	N
優勝	金沢北RC	197	優勝	大沢久広(北)	41	39	80	17	63	
2位	金沢RC	202	2位	石橋潤(金)	45	43	88	23	65	
3位	金沢東RC	213	3位	及川雅弘(北)	44	40	84	18	66	
4位	金沢西RC	215	4位	中村外志郎(金)	42	40	82	14	68	
5位	金沢南RC	222	5位	桜井健太郎(北)	42	42	84	16	68	

